

# 今月の技術対策 (水稲編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

畑作・園芸編も  
HPで公開中!

## 1 融雪促進に努めましょう

○今冬は2月中旬の高温で雪どけがすすみ、アメダスポイントの積雪深は平年より少なくなっています(表1)。2月29日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並から高く、降雪量は少なくなる予報となっています。

水田の乾土効果を高めるために、融雪促進やほ場の早期乾燥に取組み、初期生育を向上させましょう。

表1 令和6年積雪深

(アメダス令和6年2月28日)現在

アメダスポイント	積雪深(平年比)
古丹別(苫前)	73cm (72%)
羽幌	49cm (62%)
初山別	24cm (42%)

※遠別は積雪深データなし

### 【育苗ハウスの融雪促進】

- ・3月下旬までにハウスの融雪・ビニールがけを行いましょう。ハウス設置後は、天候の良い日に肩や裾を解放して、置床を乾燥させて地温上昇をすすめましょう。
- ・前年に苗の不調があったハウスは、早期に土壌pHを確認して、4.5~5.0に調整しましょう。
- ※ 資材を投入してからpHが変化するまでに2~3週間程度かかります。

### 【本田の融雪促進】

- ・融雪材の散布適期は「最高気温が0℃以上、平均気温が-3℃以上」が目安です(表2)。
- ・融雪材はムラができるように散布すると、表面積が広がり融雪が早まります。
- ・散布後に20cm以上の降雪があった場合は再散布が必要です。
- ・滞水部分は溝掘りなどで排水を促進しましょう。

表2 融雪材散布適期

(アメダス平年値より)

アメダス	散布開始目安
羽幌	2月26日
初山別	2月28日
遠別	3月8日

※古丹別は気温データがないため  
羽幌を参考としてください

### 【ケイ酸資材の投入】

- ・ケイ酸質資材は、稲体の健全化(病害や倒伏予防)や低タンパク米生産に有効です。留萌管内は土壌中のケイ酸が低いほ場が多いので、60~120kg/10a(ケイカル換算)を目安に投入しましょう。
- ・融雪が早く雪上散布が難しい場合は、ほ場が乾燥した後、耕起前に土壌改良資材として散布しましょう。

雪どけが早くても適期作業を! あせらず、計画的に作業をすすめましょう!